中国の備蓄加速

国際平和研

世界の核弾頭1万2000発

【ロンドン時事】スウェーデンのストックホルム国際平和研究所（SIPRI）は17日、米ロ英仏中にインド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮を加えた9カ国の保有核弾頭の総数が、今年1月時点で推定1万2121発だったとの報告書を発表した。9585発が使用可能な状態にあり、うち3904発がミサイルや航空機に配備されているという。

保有弾頭総数は前年比約400発減、配備中の弾頭は前年より60発以上増えた。配備中のうち約2100発は、数分以内に発射可能な「高度警戒態勢」に置かれている。ほぼ全てが米ロの核だが、中国も初めて複数の核弾頭を高度警戒態勢に置いたもようだ。

中国は「核増強を他のどの国よりも加速」（SIPRI研究員）させており、保有数は前年比90発増の500発。北朝鮮も推定で同20発増の50発となり、インドも8発増えた。これら3カ国以外は前年と同数か削減され、米国は200発、ロシアは309発の減少となった。

各国はまた、弾道ミサイルに複数の弾頭を搭載する多弾頭化技術の開発を推進。核弾頭の配備数が飛躍的に増えるだけでなく、「より多くの標的を破壊する」と敵対国を脅すことが可能になる。

SIPRIのダン・スミス所長は「冷戦時代の兵器廃棄が進んだため、核弾頭の総数自体は減っているものの、運用可能な核弾頭は年々増加し続けている」と指摘。こうした傾向は今後も加速すると予測し、「極めて懸念すべき事態だ」と警告した。

北朝鮮の新型大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星18」＝2023年7月、平壌（AFP時事）